

- ③ スポーツ交歓大会。
レクリエーション。バスケットボール。
- ④ 郷土芸能発表大会

各教育事務所ごとに芸能発表を行なった。中でもいわき市の青年学級生による「じゃんがら念仏踊り」は郷土の芸能を青年によってうけつがれた良い発表であった。

(9) 効果

県内各地域青年学級のリーダーの研修であるので青年の家での全日程の生活は模範的であった。各都市の引率者は、それぞれ研修の役割を分担し、積極的に協力し、本大会運営を円滑にした。

全体会・分科会は現代青年の学習内容の編成や、地域振興のため、いかに貢献するか等について理解を深めた。またレクリエーション、郷土芸能発表大会をとおして学級生の親ばくを深めることができた。

9. 県研究青年学級の委嘱

(1) 目的

勤労青年教育において青年学級は公教育機関としてみます重要なる役割を果たしている今日、関連行政との関連を考えながら効果的な開設運営の方法等について、継続的に研究しその成果について資料の提供等を求め、もって本県青年学級の充実振興に資する。

(2) 研究委嘱青年学級名

教育事務所名	教育委員会名	青年学級名
県北教育事務所	福島市教育委員会	福島中央青年学級
県北教育事務所	梁川町教育委員会	梁川町青年学級
県中教育事務所	須賀川市教育委員会	須賀川市勤労青年学級
相双教育事務所	新地村教育委員会	新地村青年学級
いわき教育事務所	いわき市教育委員会	平窪青年学級
会津教育事務所	会津坂下町教育委員会	坂下町若葉学級

(3) 研究課題

① 共通課題

「地域の実情と青年の動態に即した青年学級の開設と運営」

② 指定学級研究課題

- ・地域類型に適合した青年教育計画はどうあるべきか。
- ・生涯教育における青年の学習。
- ・都市における企業連けい。農村における各行政相互連けいによる学級の開設と運営。
- ・青年の意識のは握と学習内容の編成。
- ・青年学級の後援組織について。

(4) 研究委託費

1学級、2万円(6学級)

(5) 効果

本年度をもって2年間にわたる研究委託は終了した。各学級とも2～3の課題を選んで、積極的に研究をすすめ、充実した報告書を提供した。

10. 県青年学級研究協議会の設置

(1) 目的

心身ともに健やかな青少年の育成をめざし、勤労青年教

育の振興をはかるため、公教育としての青年学級のあり方を研究するとともに、地域の実態に適合した青年教育計画を確立するための基礎調査と研究協議を行ない本県青年教育の振興に資する。

(2) 委員

教育事務所	氏名	年令	職名	勤務地	住所
県中	鈴木 雄一	43	課長補佐	郡山市教育委員会、社会教育課	須賀市小作田字宮下60
	佐藤 春雄	42	社教係長	船引町教育委員会	田村郡滝根町沖田399
	塩田 義男	43	公民館長兼社教主事	平田村公民館	石川郡平田村大字下蓬田字乙字釜13-18
県南	穂積 勇蔵	44	社教主事	表郷村教育委員会	西白河郡表郷村番沢字成金1の1
	永山 久二	42	社教主事	会津坂下町中央公民館	会津坂下町大字長井
会津	菅家 長平	34	社教主事	昭和村公民館	大沼郡昭和村野尻4501
	宮代 良夫	55	公民館長	浪江町公民館	双葉郡浪江町酒井89
相双	猪狩 哲郎	45	公民館長	富岡町公民館	双葉郡富岡町大字小浜字大膳原
	岩並 貞夫	35	主任社教主事	いわき市教育委員会	いわき市常磐岩ヶ岡山の根8
県北	吉田 雄	30	主任公民館主事	小名浜公民館	いわき市江名中ノ作字川岸40
	七島 征	32	社教主事	福島市教育委員会	福島市堀川町4-8
	笠原 憲治	42	公民館長	福島市信夫公民館	福島市飯坂町字夜蚊坂14
	大原 亨	58	校長	郡山工業高校	郡山市桃見台15-21
	村田 春男	57	校長	福島農蚕高校	福島市永井川字中西田59
相双	鈴木 友重	40	青少年育成係長	県民室	福島市大森字西の内68
	佐藤保太郎	45	教頭	小野高校	田村郡小野町大字中通108
	志賀 武男	49	社教主事	相双教育事務所	双葉郡富岡町大字小浜字月ノ下4
	小峰 孟	42	社教主事	県南教育事務所	東白川郡塙町本町107
	渡部健次郎	48	社会主事	南会津教育事務所	田島町本町甲386
	菅野 次男	40	社教主事	県北教育事務所	二本松市郭内3丁目372-8

(3) 事業内容

① 研究協議

- ア. 地域類型による青年教育の体系化
- イ. 地域課題と学習内容編成の調査研究
- ウ. 生涯教育における青年の学習
- エ. 勤労青少年健全育成資料作成

② 助言資料指導

方部別青年学級研究集会および、市町村青年学級の開設運営についての助言指導にあたった。

③ 資料作成

「未来をつくる青少年の育成

(4) 効果

目的にそった計画が進められ、資料第2集が発刊されることは本県青少年教育振興に寄せる期待はまことに大きい。